

批判的中国学

—中国と私たち—

講演者:

李南周 (韓国聖公会大学)

今日中国をどう認識するのかは、専門家のみならず普通の人にとっても重要な課題である。しかし、それを的確に行うことは非常に難しい。中国を批判するか、中国を礼賛するか、あるいは時事的解説に止まらざるをえないのが現状である。中国を認識することと、私たちの課題とどう繋がるのかを考えてみる必要があるとされている。今韓国では「批判的中国学」という名の下に、ためにする中国認識ではない、実践的中国学への模索が始まっている。これを提唱する韓国聖公会大学の李南周さんとともに、この問題を考えてみたい。彼はこう言っている。「中国は知的欲求を満たすための対象などではないし、私たちの利益を増進する手段でもない。中国は新たな実践的可能性を作っていく契機として、私たちに近づいてくるのである」と。

コメンテーター:

中山智香子 (東京外国語大学)

鈴木将久 (一橋大学)

司会者:

池上善彦 (MAT 東京)

2 月 20 日 (土) 14:00 - 18:00

※入場無料・参加自由・通訳あり

場所: 明治大学和泉キャンパス 第一校舎 202 教室

交通アクセス ■京王線/井の頭線 明大前駅 下車徒歩 5 分

主催: 科研費基盤研究(B)「現代中国思想史のための中国知識界言説研究」
+ 明治大学羽根次郎研究室 + MAT 東京 (Modern Asian Thought - Tokyo)

問合せ先: 羽根次郎 (hane260@meiji.ac.jp)